
愛しい人よどこにいても幸せでいて

純

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛しい人よどこにいても幸せでいて

【Zコード】

N6529A

【作者名】

純

【あらすじ】

初めて出会った公園。初めて繋いだ手。最後のキス。最後の言葉。
世界一好きだった人。私の分まで幸せでいて。

ずっと一緒にいてね。大好きだよ。

「どんな事があつても俺の気持ちは、変わらんからな。」

あなたに会えて、本当の愛をしつた。世界で一番好きだつた人。だから、ケンカしても、乗り越えた。別れても、また一緒に居れた。何よりも、誰よりも、愛してた。あなたは、もう側にいてくれない。もう、抱きしめてくれない。もつともつと一緒に居たかつた。抱きしめてほしかつた。もっと、愛してほしかつた。一生一緒になる事は、ないと思う。

会つことも、ないとと思う。

だから、笑顔でサヨナラいいたかつた。ありがとうつて伝えたかつた。

沢山、迷惑かけた。だから、ごめんねつていいたかつた。悠哉に、まだ伝えたい事が、沢山あるんだよ。

ねえ、悠哉。もう一度、私にチャンスをくれないかな？

また、あの時みたいに、笑い合いたい。一緒にいたいよ。

第1話 懇親と出会つまで

中学2年

「ああ、男欲しいなあ。綾、いい人おらん??」

「ええ。将とかわ??」

綾とは、小6からの仲。将は、綾の元カレ。

「でも、元カレじやん!!」

「べつに、もう別れたんだし、いいじやん。」

「嫌なら、他探しなよ」

まあ…べつに、別れたんだし。いつか!!

「綾、将の番号教えて!!」

その夜、私は、軽い気持ちで将に電話した。

プルルル

「誰?」

「純やけど…」

「どうしたん??」

「前からすきやってん。だから、つきあってほしいねん。」

「うん。いいで!!」

なんか、あつとゆう間。それから、将とは連絡も取らず、カレカノ

らしい事もせず、3週間で終わった。

そして、一周間後、また違う彼氏ができる。
悠哉と出会つまで、11人の人と付き合つた。

本気じゃない人とも付き合つた。

中には、本気の人もいた。

でもたいていは、1ヶ月で終わる。

男がいないつてゆうことが私の中では、あり得ない事だった。

中学2年の時、違う学校の政に出会つた。

けつこう、本気だった。

政と居るとき素直になれた。優しくくなれた。

政は、大人っぽく、静かな人だけど、私は、そこが好きだった。
ある日、親に凄く怒られた時があった。

理由は帰るのが遅かつただけ。

それでも、親は心配して、探しててくれてた。

こつひどく怒られ、いつものように外出禁止。
普通だつたら、みんな無視するかもしれない。
でも、そんな事したら殴られる。だから、守るよじにしてた。

とにかく、政にゆわなくちゃ。

携帯をもち、電話を掛ける。

プルルル

「もし?」

「政あ、純、外禁なつてもたあ……」

「は? なんで?」

怒つてゐる……

「帰るのが遅かつたから……」

「いつ直るん?」

「わかんない。」

はあ……なんで「んな」とになるんだらう。
もつと早く帰つとけば良かつた。

「「めん。だから外禁直るまで、会えない。」

「そつか。でも、俺直るまでまつとくわな……これからは、ちゃん
と帰るんやで……」

え……まつてくれるんだ。

政の以外な反応に私は、ビックリしてた。
でも、凄く嬉しかった。

政と付き合えて良かった。つてこの時初めて思えたんだ。

「ありがとう…！」

「うん！」

少し照れながら私は答えた。

「じゃあ、切るな！」「

「わかつた！！バイバイ！！」

それから、政と連絡もとらず、3週間が過ぎた。

その頃になると、私の外禁もなくなつた。

政に会える！－！－！

頭の中は、政に会える嬉しさでいっぱいだつた。

とにかく、政に外禁がなくなつた事を伝えなきや！！

なんだかワクワクしてきた！！

だって、話すのも3週間ぶりだから。

急いで携帯をてことり、電話を掛けた。

プルルル

ツーッー：

？？

え？

もついつかい掛けでみる。

プルルル

お客様のおかけになつた電話番号は…

電源きつてる？？

わつき、かかつたよね？

わざと？

頭ん中が混乱しあじめた。

30分後もういつかい掛けてみた。

プルルル

つながった！――！

。。。お留守番サービスに

でない。

意味わかんないよ。

頭ん中真っ白で気がついたら、綾に電話してた。

「じゅん？？びびったの？？」

心配をひりひり言ひ、綾の声が聞こえた。

「綾？ 政に電話出るってゆつてほしい。」

綾と、政は以前からの友達だ。綾のおかげで、私と政は出会えた。

「なんで？ アイツ出ないの？？」

「うん。 電話切るし、電源切るし、出ないし。」

「そつか…、いぢようアイツに純に電話しろ…！ ってゆつとくね…！」

「わかった。 ありがとう。」

そういうて電話を切つた。

2・3分もたたない内に私の携帯がなつた。

プルルル

政だ。

「はい。」

なんだか冷たい言い方になつた。

「じめん。 電話でれんくて。」

「なにしてたん？」

「親おつたから…」

政の家は、厳しく、恋愛するも、今の私達の年代では叶わぬことつている。

だから、政の親には、内緒で付き合っていた。

「やつが…！」

政の言い訳に私は納得。

なんだか安心した。

「純、外禁直つたで…。」

「まじで…やつたやん…。」

「うふ…。」

「じゅあ、遊ぼつかあ…。口囁きあつてるか？。」

「あつてるよ…。」

「じゅあ、遊ぼつか…。」

「うふ…。」

日曜日会つ約束をして、電話を切つた。

やつたあ

3週間ぶりに、政に会える！

ほんと楽しみ！！

まじ、頭いかれるくらい、うれしくて胸がドキドキしてた。

次の日の朝。

今日は土曜日。私の携帯がなつた。

フルルル

綾だ。

「ん？」

「じゅんちゃん オハヨウー！」

相変わらずテンションが高い。今何時だと、おもつてんだよ。

「我也是。」

「今日なにしてんのぉ？？」

「なんにもしてない。」

「なら遊^ハまつよおーー！」

「うん、いいよお。でも今眠いから匂^ハからにして。」

「わかったーー！」

そういうて綾は、電話を切つた。

そして、私は深い眠りについた。

プルルル

「……ん~誰だよお」

見ると綾の文字が。

綾ちゃん……

つてもういちやん……

ここで電話でね。

「 もじへ。」

「 今何時だとおもってんだよ。」

怒りぐらへ

「 はい。すこせせ。」

〔冗談混じつ〕答えた。

すのと、綾も。

「 あ、おやんとこいくれないかね? 会社員にいきやうがへ。」

「 1のんぢやない。とつあえず、家入つて……。」

「 はああこ 」

ドアが開く音がした。

「おはようーー。」

「よーー。」

「てか、こつまでねてんだよーー。」

「「あんーー。昨日更かしきれ。」」

昨日の夜、なんか嬉しそうで、寝れなかつたんだ。

「あつそつだーー。」

思ひだしたよつよ、私は言つた。

「あれから、政から電話あつたよーー。」

「やつかーー。よかつたーー。」

「うんーー。それで、でなかつたのは、親がいたから。でも明日遊ぶ約束しちやつた。」

「よかつたねえ。あんた、本当嬉しそうだ。」

「うん」

その時

プルルル

私の携帯が鳴った。

政だ！！！

急に、どうじんだる。

「もし？？」

「純？」

いつもと、違う政。

「どうしたの？」

「俺、考えた。俺等、別れないか?」

は?

急に?

意味わかんない。

涙が溢れてくる。

「なんで?」

「だって俺等、学校違うし、あんまり会えないだろ?」

「ひねから、会へるよりしたらいこやか?」

「こや、それわ無理。」

「んで?せははつ、会えなかつたから?本当に好きだつたら、3週間会えない位でさめなこよね?」

本当に、なかつたんだ。

「やだよ。」

「いの?」

あつと、好きだつたのは、私だけだつたのかもしれない。

「ひさ。分かつたよ。むへ、ここよ。まこまこ」

「...まこまこ」

電話を切った。

私は、その場で泣き崩れた。

その時、綾が抱き締めて、こう言った。

「大丈夫だよ、純を本当に愛してくれる人、絶対いるから。純にあつた人、また見付かるって。辛いかもしれないけど、何事にも、経験が大事だよ。」

うん。

そうだよね。

いつか、本当に愛してくれる人、見付かるよね。

きっと見付かるよね。

私は、それからあんまり人を本気に好きにならない。って決めた。

だつて別れる時辛いから。

人には、絶対、別れがあるんだ。

だから、信じちゃダメなんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6529a/>

愛しい人よどこにいても幸せでいて

2010年10月12日03時09分発行